

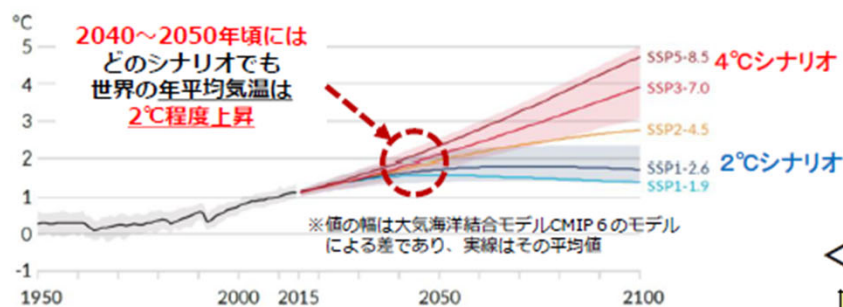
## 気候変動と流域治水について

○整備を越えるスピードで進行する気候変動に対応するため、気候変動適応型の治水対策への転換が必要

### 【背景・課題】

・災害の発生状況やIPCC の評価等を踏まえれば、将来の気候変動はほぼ確実と考えられ、緩和策と適応策とを車の両輪として進め、気候変動に対応する必要

<1850年～1900年に対する世界平均気温における各シナリオごとの予測>



出典:AR6 Climate Change 2021:The Physical Science Basis Summary for Policymakers

2°C上昇※ケースにおける降雨量の変化倍率

|             |      |
|-------------|------|
| 北海道北部、北海道南部 | 1.15 |
| その他地域       | 1.1  |



※パリ協定(気候変動に関する国際的枠組み)における将来の気温上昇を2°C以下に抑えるという目標を前提とした場合の算定結果

<参考>降雨量変化倍率をもとに算出した、流量変化倍率と洪水発生頻度の変化

| 気候変動シナリオ | 降雨量   | 流量    | 洪水発生頻度 |
|----------|-------|-------|--------|
| 2°C上昇時   | 約1.1倍 | 約1.2倍 | 約2倍    |
| 4°C上昇時   | 約1.3倍 | 約1.4倍 | 約4倍    |

### 【取組方針】

○将来の気候変動の影響による降雨量の増加等を考慮した治水計画に見直すとともに、流域全体でハード・ソフト一体になってあらゆる対策を総動員する治水対策へ転換が必要



# 近年の主な洪水（平成21年以降）

